

第110回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

頑張るということは

実は、この4月から香川大学教育学部附属坂出小学校の校長と附属幼稚園の園長を併任することになりました。教育学部の仕事とバリアフリー支援室の室長はそのままです。

小学校と幼稚園に行って、先生方といろいろ話をしながら、また、子どもたちと話をしながら感じるがあります。それは、学校や幼稚園で頑張るということばがとて多いことです。子どもたちに対しても使っていることが多いし、先生方が自分自身のことで使っていることも多くあります。そこで、頑張るという言葉についてちょっと考えてみました。

辞書では頑張るという言葉は次のような意味で書いてあります。

- ① あることをなしとげようと、困難に耐えて努力する。
- ② 自分の意見を強く押し通す。我を張る。
- ③ ある場所を占めて、動こうとしない。

学校では、①の意味で使われることがほとんどだと思います。といっても、もっと簡単に使っているのではないかと思います。

学校でよく使われることについて少し考えてみましょう。

学習や成績に関連して使われる場合です。35人のクラスで先生が子どもたち全員に言います。「今度のテストではみんな頑張ってください」と、その言葉を聞いてみんなが同じだけ努力したとしましょう。同じだけ頑張るのです。その結果はどうでしょうか？太郎さんはこれまでもとても成績がよくいつも1番でした。健太さんはいつもクラスで10番です。次郎さんは、あまり成績はよくありません。お勉強が苦手なのです。だからいつも35番です。太郎さんも健太さんも次郎さんもみんなまじめです。先生の言葉を聞いてみんなまじめに頑張りました。さて、その結果はどうなるでしょうか？1番の太郎さんががんばったのです。その結果は、当然1番です。太郎さんは同じだけ頑張ったら1番なのです。健太さんもがんばりました。みんな同じだけ頑張っているのですから、結果は10番です。次郎さんもがんばりました。でも、みんな同じだけ頑張っているわけですから、その結果は35番から変わらないのです。

ここで、先生の言った頑張れの意味を考えてみましょう。先生が言った頑張れが、他の人より頑張れと言ったのだとすると、それは間違っているということです。順番が上がった子どもは頑張ったことになりませんが、順番が上がらなければいくら努力しても認めてもらえないからです。しかし、みんなが頑張ったら順番が上がるわけがありません。ここからわかることは、学習や成績は人と比較するものではないということです。一人一人の子どもの個人内の努力を評価することが大切だということです。順番で評価するのではなく、太郎さんには太郎さん個人の、健太さんには健太さんの、次郎さんには次郎さんのなかで努力したことを評価するようにすることが大切なのです。

一度見直してみてください。あなたの言っている頑張れは、周囲の人よりも頑張れという意味で使われてはいないかどうかということをして！！

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。